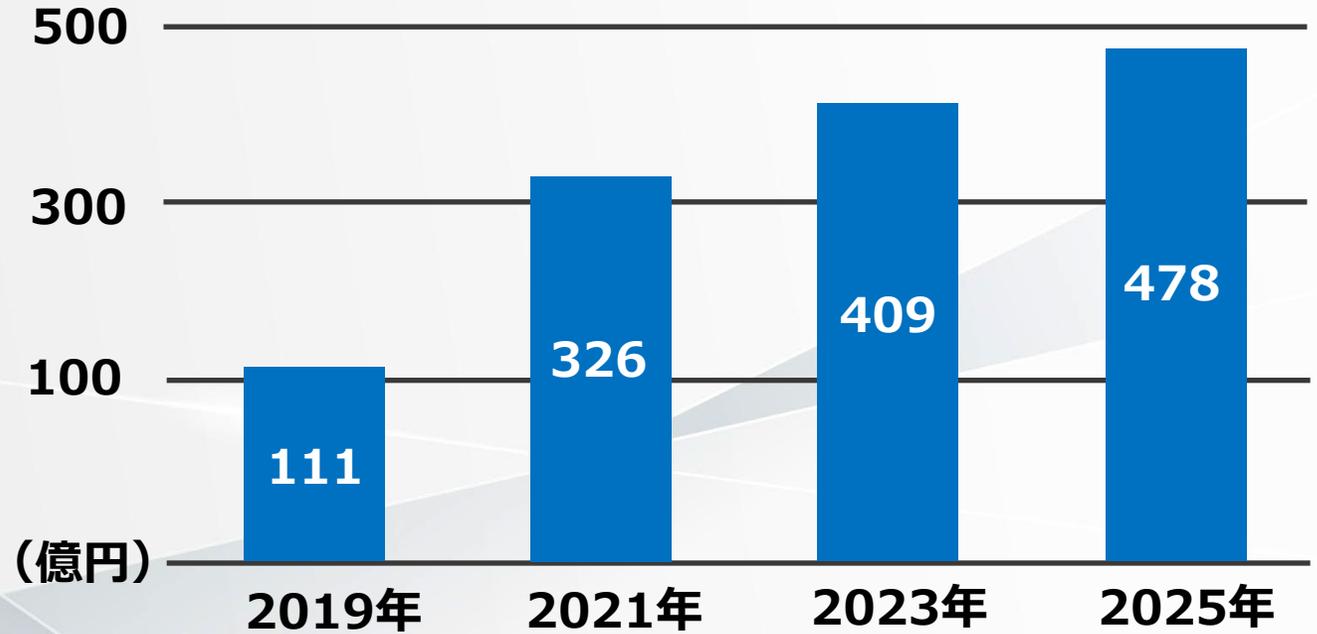


ウェビナーの3つのメリットと注意点

【マーケティングファネル構築 マスター講座】 Vol.19

※講座画面

ウェビナーとは？



※参照元：<https://www.itr.co.jp/company/press/210715PR.html>

ウェビナーは**オンラインで行われるセミナーや勉強会**の総称です。

新型コロナウイルスの影響で対面のコミュニケーションが難しくなった2020年以降、導入する企業が急速に増えています。ITR社の調査では現在の市場規模は409億円。2025年には478億円に達する見込みです。

※講座画面

見込み顧客の育成とウェビナー



ウェビナーでは映像と音声、資料（pptなど）を組み合わせ、業務のノウハウや成功事例を共有したり、特定の業種、関連法について解説したりすることが可能です。

見込み顧客にとって役に立つそうした情報を提供することで売り手への信頼を高め、**購入・導入に向けた比較検討を促す**のが、ウェビナーの役割です。

※講座画面

ウェビナーの3つのメリット

1 低コストで速やかに実施できる

ウェビナーは、数あるリードナーチャリング施策のなかでもメルマガと並んでコストがかからない施策です。

ツール（Google Meetなど）によって**場所を問わず映像・音声を送受信**できるため、利用料を支払って会場を押さえたり、機材を準備したりする必要はありません。

ウェビナーなら…

不要

- セミナールームの利用料
- ブースの設営、会場の装飾費
- プロジェクター、音響機器



※講座画面

ウェビナーの3つのメリット

2 手軽に参加できる

参加者側のハードルが低いのもウェビナーならではのメリットです。インターネットに接続できる環境と端末（PC・スマートフォン）があれば、場所を問わず参加できます。

会場への**交通費**や**移動時間**などは一切かかりません。また、録画配信型のウェビナーであれば、空いた時間などを使ってもう一度学び直すことも可能です。



隙間の時間を使って
自宅からの参加も可能。

※講座画面

ウェビナーの3つのメリット

3 対面感覚でコミュニケーションがとれる

ウェビナーツールにはCODECという圧縮技術が使われており、先述したとおり映像と音声をほぼリアルタイムで送受信できます。主催者と参加者は、対面とほぼ変わらない感覚でコミュニケーションをとることが可能です。

オフラインの勉強会のように、講師の声が届きにくかったり、資料が見えにくかったりすることで参加者が集中を欠いてしまうようなこともありません。

参加者1人ひとりの反応を確かめやすく
質疑応答もスムーズに



※講座画面

ウェビナーの注意点

1 配信トラブルの可能性がある

オンラインで実施する以上、致し方ない点ではありますが、通信環境や端末の性能によってはウェビナーの途中で映像が乱れたり、音声途切れたりする可能性があります。

そうしたトラブルを未然に防ぐには、**事前の準備・リハーサル**が欠かせません。以下のポイントに沿って入念にチェックを行いましょう。

本番当日のトラブルを防ぐために

- 端末の通信速度をチェックしておく
- 本番と同じ場所・時間でリハーサルを行う
- ウェビナーツール以外のアプリを閉じておく

🔍 Speed test google

端末の通信速度は
10Mbps以上を目安に

※講座画面

ウェビナーの注意点

2 横のつながりが生まれにくい

主催者と参加者は対面感覚でコミュニケーションがとれる一方、ウェビナーでは講義後の懇親会で参加者同士が親睦を深めたり、名刺交換したりすることができません。

参加者同士の横のつながりを重視する場合、見込み顧客のコミュニティを創出することでリード育成を図っていきたい場合などは、**オフラインイベント**の方が向いています。



※講座画面

ウェビナーの注意点

3 直接のセールスには不向き

ウェビナーの成約率（実施後に直接商品やサービスを購入・導入する参加者の割合）は、**平均5%から10%前後**とされています。

理由はいくつか考えられますが、その場でセールスしても**大きな成果は見込めません**。ウェビナーはあくまでリードを育成する機会の1つとして捉え、参加者にとって有益な学びの場になるよう工夫しましょう。

モノを売るのではなく
役に立つ情報を提供すること



※講座画面

まとめ ウェビナーの3つのメリットと注意点

メリット

- 1 低コストで速やかに実施できる
- 2 手軽に参加できる
- 3 対面感覚のコミュニケーション

注意点

- 1 配信トラブルの可能性はある
- 2 横のつながりが生まれにくい
- 3 直接のセールスには不向き

ウェビナーは予算の限られる中小企業やベンチャー企業も実施しやすく、参加者のハードルも低い一方、トラブルの可能性などいくつかの注意点があります。

実施にあたっては、こうしたウェビナーの特性をきちんと理解し、正しい準備を行う必要があります。

※講座画面